

Ⅲ. 高大接続研究センターの活動

1. 2019年度 活動報告

大谷 尚・高橋 まりな

(1) センターの体制

2019年度から、前年度までのセンター長であった大谷尚教授の3月末での定年退職に伴い、新たに柴田好章教授がセンター長となった。また、大谷教授が4月に特任教授として着任した。

センター事務は、浅井事務補佐員の3月末での退職後、高橋まりな事務員が5月に採用され担当している。センターの業務についての実務的な会議は、柴田センター長、大谷特任教授、高橋事務員で必要に応じて不定期に開催している。

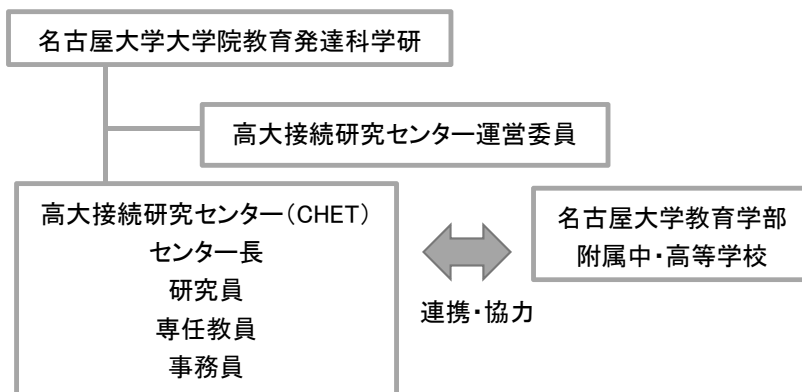
また、高大接続に関する他大学の研究者として佐々木隆生氏（北海道大学名誉教授、元北星学園大学経済学部教授）に引き続き研究員を委嘱している。

〈2019年度 高大接続研究センター運営委員〉

氏名	所 属
柴田 好章	大学院教育発達科学研究科教授, 高大接続研究センター長
大谷 尚	大学院教育発達科学研究科特任教授, 名古屋大学名誉教授
中嶋 哲彦	大学院教育発達科学研究科教授, 教育学部附属中・高等学校長
渡邊 雅子	大学院教育発達科学研究科教授
中谷 素之	大学院教育発達科学研究科教授
野村あすか	大学院教育発達科学研究科講師
三小田博昭	教育学部附属高等学校副校長

(2019年4月現在)

〈高大接続研究センターの組織図〉



(2) 活動報告

高大接続研究センターの事業は、①高大接続型教育とグローバル教育に関する調査研究、②高大連携プログラムの推進と高大接続のための高度化とAP化、③附属学校から名古屋大学へのグローバル人材育成を目的とした高大接続入試の実現、④研究成果の社会への発信と高大接続のためのネットワーク構築、⑤教職に就くための高大接続改革についての理解を促進するプログラムの開発およびアドミッション・オフィサー養成プログラムの構築である。

① 高大接続型教育とグローバル教育に関する調査研究

2019年度は、高大接続や大学入学者選抜に関する下記の講演会・セミナーに参加するとともに、④に記した通り琉球大学と長崎大学の高大接続部門を訪問して、情報収集および調査を行った。

	日 程	タイトル・内容	場 所
i	5月23-25日	第14回全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会	関西学院大学
ii	6月17-18日	北海道の大学の高大接続に関する調査	北海道科学大学・北星学園大学
iii	6月18日	北海道大学入試改革フォーラム	北海道大学
iv	6月25日	大阪大学高等教育・入試研究開発センター HEAD (Higher Education and Admission Design) セミナー	大阪大学
v	8月19-20日	アジア高校生会議	名古屋大学
vi	10月26日	シンポジウム「論述型大学入試に向けた指導法」	立命館大学
vii	11月2-6日	AACRAO Strategic Enrollment Management カンファレンス	米国ダラス市

i 2019年度第14回全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会

大学入試センターが主催し全国の大学の入学者選抜に関わる教職員と高等学校・教育委員会関係者が参加する大会である。多岐にわたる研究発表や実践報告がなされるものであり、当センターは発足以来参加している。

本年度の詳細は同センター発行のプログラム等に譲る。

ii 北海道の大学の高大接続に関する聴き取り調査

北海道では年少人口が減少しており、高大接続改革に関わって固有の課題に直面している。そのためiiiの目的で札幌を訪れた際に、北海道科学大学の野呂瀬崇彦准教授と北星学院大学の金子

大輔教授に個別に面会し、両大学の入学者募集・入学者選抜に関する戦略などについて聴き取り調査を行った。

iii 北海道大学入試改革フォーラム「コンピテンシー評価に基づく新たな大学入学者選抜の可能性」

北海道大学は道内の高校教員をアドミッション・オフィサー准教授として採用し、高校との連携による入学者選抜を計画しており、その詳細な情報を取得するため。昨年度に引き続いて参加した。

プログラムの詳細については、同大学のWEBページと報告書に譲る。

iv 大阪大学高等教育・入試研究開発センター HEADセミナー「大学はどう変わるべきなのかを探る—大学入学者選抜と高等教育の視点から—」

大阪大学高等教育・入試研究開発センターの主催によるHEAD (Higher Education and Admission Design) セミナーに参加した。米国のアドミッション担当で同センター特任教授のお2人 (AAC&U (全米大学・カレッジ協会) のスーザン・アルバーティン氏とオレゴン大学アドミッション部のジム・ローリンズ氏 (元NACAC会長)) の講演であった。2人の特任教授は在日時期がずれており、2人がちょうど重なるこの日に開催されたため、いちどにお2人から講演を聴くことができる貴重な機会であった。とくに、アルバーティン氏は高等教育を専門とする研究者であり、ローリンズ氏は入学者選抜に従事してきた専門職員であり、オレゴン大学アドミッション部長で学生サービスとエンrollment・マネジメント担当副学長であるため、異なる専門、異なる立場からの講演は有益な示唆に富んでいた。

プログラムの詳細は同センターのページを参照のこと。

v アジア高校生会議

8/19 (月) -20 (火) に附属学校によって「アジア高校生会議」が開催された。高大接続研究センターは、これを全面的に支援するとともに、高大接続型教育とグローバル教育の観点から、その様子を詳細に観察した。

これは名古屋大学附属学校がSGH (スーパーグローバルスクール) の事業の一環として毎年開催しているものであるが、今回は5年間に1,000人のアジアの高校生を1年間の滞在のために招待する「アジア高校生架け橋プロジェクト」で来日したアジアの高校生113人、ヨーロッパの高校生2人、日本の高校生39人の154人によるきわめて大規模な会議として行われた。

1日目は、全体会を経済学部カンファレンスホールで行い、その後、SDGs (エスディーゼーズ) の各テーマに分かれてのグループ・ワークを経済学部ゼミ室で行って翌日のポスター発表の準備をした。2日目は、各グループからのポスター発表が附属学校国際交流ホールで行われた。松尾総長が1日目の全体会で歓迎の挨拶を行い、2日目のポスター発表も参観された。文科省からも視察に来られ、両日ともに熱心に観察し記録をしておられた。

なお、この事業には、名古屋大学の多数の留学生が各グループのTAとして参加した。

vi シンポジウム「論述型大学入試に向けた指導法」

日仏教育学会2019年度研究大会シンポジウムの一般公開に参加した。基調講演では、グランド・ゼコール準備級地理教員でありバカロレア試験の参考書の執筆にも携わるフレデリック・ヴィエノ氏が、バカロレア試験で問われる力とその育成、実際の試験における採点方法について、豊富な具体例を示しながら解説した。シンポジウム「論述型大学入試に向けた指導法」では、フランスの高校における思考力・表現力についての報告がなされた後、日本の高校教員の立場から実践報告があり、両者の違いについて活発な議論がなされた。

プログラムの詳細については、同学会の刊行物等に譲る。

vii AACRAO Strategic Enrollment Management カンファレンス

2019年11月3日から6日に米国のAACRAO (American Association of Collegiate Registrars and Admissions Officers) がグラスで開催した29th Annual Strategic Enrollment Management Conferenceに参加した。これについては、本紀要の「I. アドミッション・オフィサー養成プログラムの構築に関する調査報告：AACRAO (American Association of Collegiate Registrars and Admissions Officers) によるSEM (Strategic Enrollment Management) 年次カンファレンスへの参加報告と戦略的エンrollment・マネジメントについて」で詳細な報告をしているのでそちらを参照されたい。

② 高大連携プログラムの推進と高大接続のための高度化とAP化

高大連携プログラムの推進として、下記のi、ii、ivの企画を主催・共催した。またiiiの企画に参加した。

	日 程	タイトル・内容	場 所
i	7月11日	一日総合大学	附属高等学校1・2年生
ii	7月-10月	学びの杜・学術コース	愛知県を中心とする高校生
iii	7月31日	附属学校での「協働的探究学習の指導法研究会」での講演	協働的探究学習の指導法研究会参加者
iv	8月6-8日	中津川プロジェクト	附属高等学校生徒

i 一日総合大学

「一日総合大学」は、附属学校生徒が自らの進路を自覚的に選択できるようになることを目的に、キャリア形成の教育として実施している。今年度は本学の9つの研究科の教員による講義が行われ、201名の生徒が参加した。

ii 学びの杜・学術コース

高校生向け講座「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の教員を中心とした研究者たちが、それぞれの学問領域における大学レベルの「学び」を体験する機会を高校生たちに提供するもので、2005年の開始から14年目を迎えた。受講者に実施したアンケート結果から、この講座は名古屋大学への進学を志望する高校生にとっては、その志望意志を強くする機会であり、名古屋大学以外への進学を志望する高校生にとっては、志望する学部の研究内容を知ることができる良い機会となっていることが分かっている。(〈プログラム〉参照。)

iii 附属学校主催の「共同的探究学習の指導法研究会」での講演

附属学校からの依頼を受け、附属学校主催の「共同的探究学習の指導法研究会」で、高大接続改革についての講演「学びの高大接続－受験学力形成 vs 高大接続型学力形成－」を行った。とくに、非定型な問題や課題に対する問題発見・問題解決の力の育成とそのため学習環境の重要性の観点から、共同的探究学習と高大接続型学力形成との関連について述べた。

iv 中津川プロジェクト

2泊3日の短期集中型で行っている附属学校の「中津川プロジェクト」(2019年8月6-8日)において、運営のサポートを行った。これは2017年度まで、「東海地区国立大学協同利用中津川研修センター」を利用して行ってきたものであるが、同センターが2017年度末をもって廃止されたことに伴い、2018年度から岐阜県恵那市串原の奥矢作レクリエーションセンターに場所を移して開催している。

センターからも特任教員が生徒の引率に参加し、大学教員の指導による高校生の学びについて観察・検討した。また「高校での学びと大学での学びについて」のナイトセッションを担当した。

〈進行中のプロジェクト：附属図書館との連携事業〉

本学の学部新一年生が大学での学びにスムーズに移行できるよう支援する目的で、附属中央図書館情報サービス課情報リテラシー係とのコラボレーション企画の準備を進めている。

ひとつは2020年度前期に、学部1年生を対象に実施予定の高大接続に関するセミナーである。当センターの学内者を対象とした高大接続セミナーは、例年教職を目指す学生を対象に実施してきたが、新しい試みとして高校から大学への移行のまさに渦中にある学生たちに向けてセンターから発信することを考えている。

もうひとつは同系の大学院生スタッフが毎年春学期に開催する、新入生向きのライティング・プレゼン講習会「これだけ講座」の教材づくりへの参加である。この講座は2014年から継続して毎年4-5月に開催しているもので、当センターが関与するのは2020年度実施予定の第7回が初めてである。

③附属学校から名古屋大学へのグローバル人材育成を目的とした高大接続入試の実現

この事業内容は名古屋大学の第3中期目標に「K10 海外拠点等を活用し、海外の中等教育機関との連携を強化し、優秀な留生の確保ができるよう、推薦制度の導入など選抜方法等の改善に

取り組む。」とあることをその根拠として設定されたものである。しかし2017年度からの入学定員における留学生人数の扱いの変更や留学生教育についての本学のミッションについての再検討などを背景に、大学本部が第3中期目標からこれを削除したため、本研究科と本センターとしてもこの事業の直接の実現は断念し、新たな形態を再検討中である。

ただし、本学の指定国立大学法人構想と東海国立大学機構の設立による新たなマルチ・キャンパスシステムの樹立に伴う大きな変革の中で、これを再度検討する必要性が生じる可能性が無いとは言えないため、多様な情報収集を継続し、関係各方面と協議を継続している。

④研究成果の社会への発信と高大接続のためのネットワーク構築

当センターが開催した講演会と当センター教員による情報提供は下の表の通りである。なお、2020年3月に『高大接続研究センター紀要第5号』（本号）を発刊した。

	日 程	タイトル・内容	場 所
i	6月27日	教職を志望する名大生のための「高大接続」セミナー 来年の大学入学者選抜はどう変わるのか？	名古屋大学ES総合館 2階ES023講義室
ii	6月28日	教職を志望する名大生のための「高大接続」セミナー 来年の大学入学者選抜はどう変わるのか？	名古屋大学教育学部 2階第3講義室
iii	11月25日	琉球大学グローバル教育支援機構アドミッション部門で の米国の大学入学者選抜に関する情報提供と情報交換	琉球大学
iv	2月23日	長崎大学高大接続部門訪問と河野茂学長および浜田久 之高大接続担当副学長との面談と情報提供・情報交換	長崎大学

i・ii 教職を志望する名大生のための「高大接続」セミナー 来年の大学入学者選抜はどう変わるのか？

今年は、大学入試センターが2020年から実施する新しいテスト「大学入学共通テスト」の実施を前提に、タイトルに「来年の大学入学者選抜はどう変わるのか？」を加えた。

iは理系地区で主に理系学生・教職員を対象に、iiは文系地区で主に文系学生・教職員を対象に開催した。前年度に続いて、入試改革を控えた高校生とその保護者の不安を考慮し、教育学部附属学校生徒とその保護者にも公開した。参加者は、参加者の属性ごとに区分すると、iが本学教職員8名、学部生・院生9名、附属高校生5名、附属高校生保護者4名、合計26名であり、②が本学教職員12名、学部生・院生10名、附属高校生1名、附属高校生保護者4名、合計27名で、参加者数は昨年度の倍であった。事務職員としては初年時対応のプログラムを有している図書館職員が多かった。なお、開催時期は、本学の学生が、教員採用試験の準備をする際に、高大接続改革の現状を合わせて学び、理解できるようにすることを目的として、愛知、岐阜、静岡、三重の4県の教員採用試験の前に設定した。(〈プログラム〉参照。)

申し込みを受け付けて集計する機能がセンターのWEBサイトに備わっていたため、今回から、このシステムで自動受付を行った。

〈プログラム〉 教職を志望する名大生のための「高大接続」セミナー

教職を志望する名大生のための 「高大接続」セミナー

名大
構成員
対象

来年の大学入学者選抜はどう変わるのか？

来年2020年には、現在のセンター試験が廃止され、記述式解答や複数正答のある出題を含む「大学入学共通テスト」が実施されます。また、英語には民間の資格・検定試験も活用されます。同時に入学者選抜に、「多面的・総合的評価」が導入され、高校からの調査書の「十分な活用」のための調査書の書式の変更とページ数制限の撤廃もなされました。これらは現在文科省が急速に進めている「高大接続改革」によるもので、この改革は“戦後最大の教育改革”とも言われています。

このセミナーでは、高大接続改革について分かりやすく解説した上で、今後の高校教育改革、大学教育改革、大学入学者選抜改革について一緒に考えたいと思います。是非ご参加下さい。

講師：大谷尚（教育発達科学研究科特任教授）

- ◆ 2019年6月27日（木）16:30-18:00
ES総合館2階 ES023講義室
- ◆ 2019年6月28日（金）16:30-18:00
教育学部2階 第3講義室

両日とも内容は同じです。

- 名古屋大学所属の学生・教職員ならどなたでもご参加いただけます。
- 参加を希望される方は、高大接続研究センターWebサイトの参加申込フォームからお申し込みください。
- 事前申込のない方のご参加も当日会場にて受け付けいたします。

高大接続研究センター
chet@educa.nagoya-u.ac.jp



参加申込フォームはこちらから

TEL 052-789-4214
URL <http://chet.educa.nagoya-u.ac.jp/>

iii 琉球大学グローバル教育支援機構アドミッション部門での米国の大学入学者選抜に関する情報提供と情報交換

センター教員が琉球大学グローバル教育支援機構アドミッション部門で、米国の大学入学者選抜に関する情報提供を行い、高大接続に関する情報交換・情報共有を行った。

vi 長崎大学高大接続部門訪問と河野茂学長および浜田久之高大接続担当副学長との面談と情報提供・情報交換

本年度秋に長崎大学では、高大接続担当副学長職が設定され、そこに、本研究科教育マネジメントコースでEd.D.を取得した長崎大学病院教授の浜田久之医師が着任した。この長崎大学高大接続部門を訪問して、まず河野茂学長と面談し、高大接続に関する情報提供、情報交換を行った。その後、浜田久之高大接続担当副学長に対して、高大接続改革の動向などについて情報提供・情報交換を行うとともに、同大学の新たな高大接続戦略について討論した。

〈Webページ〉

2015年度に開設した本センターのWEBページでは、高大接続に関する最新情報や全国の大学に設置されている高大接続関連の研究センターへのリンクを掲載し、高大接続関係のあらゆる情報がこのページを通して得られるように、引き続き内容の充実を図った。

なお、高大接続研究センターのページを公開しているサーバの仕様が古く、ページ編集・公開システムWordPressのバージョンアップができなくなっていたため、ページに乱れが生じ、ページの更新も中断しており、セキュリティ上も問題があった。そこで、この問題に詳しい研究科教員と相談した上、業者に依頼してサーバの移行をした。その結果、ページ編集・公開システムのバージョンアップもでき、センターのページでの情報発信の更新を再開した。

⑤教職に就くための高大接続改革についての理解を促進するプログラムの開発およびアドミッション・オフィサー養成プログラムの構築

まず、このテーマの前半「教職に就くための高大接続改革についての理解を促進するプログラムの開発」については、④のi・iiの準備と実施およびそこで得られたフィードバックを基盤として開発を継続している。

またそれを含む「アドミッション・オフィサー養成プログラムの構築」については、これまでおこなってきたアメリカの大学のアドミッション部門の調査（2017年3月13-20日）（大谷・依田, 2018）、アメリカの大学側と高校側の大学進学カウンセラーの全国組織NACAC（National Association for College Admission Counseling）の年次会合での調査（2017年9月14-16日・ボストン）（大谷2018）、日本でほとんど知られていないアメリカの大学進学独立カウンセラー（independent college counselor）の全国組織HECA（Higher Education Consultants Association）の年次会合（2018年6月11-15日・ダラス）（大谷2019）、そして今年度のAACRAO（American Association of Collegiate Registrars and Admissions Officers）によるSEM（Strategic Enrollment Management）年次カンファレンス調査などの蓄積に基づき、また本研究科執行部との検討を行いながら、養成プログラムのモデル構築を進めてきている。